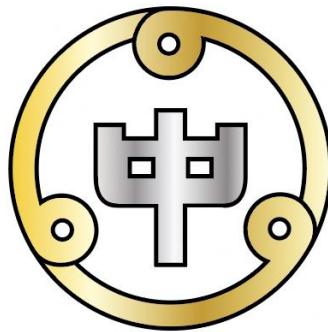


令和6年度

「運営に関する計画・自己評価(最終評価)
及び「学校関係者評価報告書」



大阪市立喜連中学校
令和7年3月

(様式 1)
大阪市立喜連中学校 令和 6 年度 運営に関する計画・自己評価（総括シート）

1 学校運営の中期目標

現状と課題

本校では部活動の活性化と生徒の自主的活動を中心とした規範意識の向上を目指し、学校を中心として保護者・地域・PTAの協力のもと取り組みを進めてきている。その結果、現在では安定した学校活動が行われている。今後はこの状態をもとにして表面に表れにくい「いじめ」や遅刻・不登校の問題に力を入れていきたい。また、学力面においても、従来より取り組んでいる学力向上対策をさらに推進し、たしかな学力の育成を目指さなければならないが、「人間尊重の精神を基盤にした教育」を見失わないように最大の努力をしなければならない。これらの課題をクリアするためには、家庭、地域さらには小学校や関係諸機関とのより密接な連携・協力が不可欠である。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

- ・令和 7 年度末の生徒アンケートにおける「学校へ行くのが楽しい」の項目について、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の割合を 85% 以上にする。
- ・令和 7 年度末の生徒アンケートにおける「先生は、私たちの話を聞いてくれる」の項目について、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の割合を 80% 以上にする。
- ・令和 7 年度末の保護者アンケートにおける「学校は、いじめのない学校づくりに取り組んでいる」の項目について「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」割合を 80% 以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ・令和 7 年度末の生徒アンケートにおける「学校の授業はわかりやすい」の項目について、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の割合を 85% 以上にする。
- ・令和 7 年度末の生徒アンケートにおける「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合を 70% 以上にする。
- ・令和 7 年度末の生徒アンケートにおける「文化発表会や体育大会、宿泊行事は楽しみである」の項目について「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の割合を 80% 以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- ・令和 7 年度末の生徒アンケートにおける「日々の学校活動の中で学習者用端末を活用している」の項目について肯定的に回答する生徒の割合を 80% 以上にする。
- ・教職員の働き方改革に関して、有給休暇を 10 日以上取得する教職員の割合を 90% 以上にする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【安全・安心な教育の推進】

- ・年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を 85%以上にする。
(R5 年度…1 年 86%、2 年 84%、3 年 82%)
- ・年度末の保護者アンケートにおける「学校は、いじめのない学校づくりに取り組んでいる」の項目について「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の割合 80%以上を維持する。(R5 年度…83%)
- ・年度末の校内調査において、不登校生徒の在籍比率を前年度より減少させる。
- ・年度末の校内調査において、前年度不登校生徒の改善の割合を増加させる。
- ・年度末の生徒アンケートにおける「学校の規則を守っていますか」に対して肯定的に回答する生徒の割合を 70%以上にする。(R5 年度…1 年 65%、2 年 69%、3 年 68%)
- ・年度末の生徒アンケートにおける「先生は、私たちの話を聞いてくれる」の項目について、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の割合 80%以上を維持する。
(R5 年度…1 年 93%、2 年 94%、3 年 90%)
- ・年度末の生徒アンケートにおける「学校へ行くのが楽しい」の項目について、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の割合 85%以上を維持する。
(R5 年度…1 年 91%、2 年 79%、3 年 80%)
- ・年度末の生徒アンケートにおける「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を 80%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ・年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を 35%以上にする。(R5 年度…1、2 年 33%、3 年は 30%)
- ・中学校チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 3 ポイント向上させる。
- ・年度末の校内調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する生徒の割合を 60%以上にする。(R5 年度…1 年 54%、2 年 43%、3 年 55%)
- ・年度末の生徒アンケートにおける「学校の授業はわかりやすい」の項目について、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の割合 85%以上を維持する。
(R5 年度…1 年 96%、2 年 87%、3 年 90%)
- ・年度末の生徒アンケートにおける「文化発表会や体育大会、宿泊行事は楽しみである」の項目について、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の割合 85%以上を維持する。(R5 年度…1 年 94%、2 年 90%、3 年 91%)

【学びを支える教育環境の充実】

- ・授業日において、生徒の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の 50%以上にする。
- ・学習者用端末を活用した学習、生徒アンケート等を実施する。
- ・教職員の働き方改革に関して、有給休暇を 10 日以上取得する教職員の割合を 80%以上にする。

3 本年度の自己評価結果の総括

【安全・安心な教育の推進】について

- ◎ 年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合は、1・2年 87%、3年 86%であった。
- ◎ 年度末の保護者アンケートにおける「学校は、いじめのない学校づくりに取り組んでいる」の項目について「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の割合は 85%であった。
- △ 年度末の校内調査において、不登校生徒の在籍比率はほぼ横ばい状態であった。
- 年度末の校内調査において、前年度不登校生徒の改善の割合は、3年 4名、2年 5名であった。
- ◎ 年度末の生徒アンケートにおける「学校の規則を守っていますか」に対して肯定的に回答する生徒の割合は、1年 98%、2年 97%、3年 99%であった。
- ◎ 年度末の生徒アンケートにおける「先生は、私たちの話を聞いてくれる」の項目について、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の割合は、1年 94%、2年 97%、3年 96%であった。
- 年度末の生徒アンケートにおける「学校へ行くのが楽しい」の項目について、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の割合は、1年 87%、2・3年 85%であった。
- ◎ 年度末の生徒アンケートにおける「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合は、96.5%であった。

【未来を切り拓くための学力・体力の向上】について

- 年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合は、1年 33%とわずかに目標に達しなかったが、2年 44%、3年 39%であった。
- 中学校チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対応比は、同一母集団において経年的に比較し、3年では国語で 2.3 ポイント、数学では 4.9 ポイントともに低下した。
- △ 年度末の校内調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する生徒の割合は、1年 45%、2年 51%、3年 55%であった。
- ◎ 年度末の生徒アンケートにおける「学校の授業はわかりやすい」の項目について、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の割合は、1年 96%、2年 93%、3年 90%であった。
- 年度末の生徒アンケートにおける「文化発表会や体育大会、宿泊行事は楽しみである」の項目について、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の割合は、1年 88%、2年 91%、3年 95%であった。

【学びを支える教育環境の充実】について

- △ 授業日において、生徒の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数は目標値に達しなかった。不登校生も含めて活用率 UP をはかるため、10 月に一人一台端末を持ち帰らせたが逆に活用率を低下させる期間を生じさせてしまった。生徒の 7 割以上が学習者用端末を活用した日数であれば、目標値に達しており、端末活用率は昨年度より向上している。
- 学習者用端末を活用し teams を使って学習課題を与え提出状況を点検したり、デジタルドリルも活用した。生徒アンケート等は Microsoft Forms を活用し、データ集計の簡便化をはかった。
- 教職員の働き方改革に関して、有給休暇を 10 日以上取得する教職員の割合は、全教職員の 88% であった。

大阪市立喜連中学校 令和 6 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標 1 安全・安心な教育の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> 年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を 85%以上にする。(R5 年度…1 年 86%、2 年 84%、3 年 82%) 年度末の保護者アンケートにおける「学校は、いじめのない学校づくりに取り組んでいる」の項目について「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の割合 80%以上を維持する。(R5 年度…83%) 年度末の校内調査において、不登校生徒の在籍比率を前年度より減少させる。 年度末の校内調査において、前年度不登校生徒の改善の割合を増加させる。 年度末の生徒アンケートにおける「学校の規則を守っていますか」に対して肯定的に回答する生徒の割合を 70%以上にする。 (R5 年度…1 年 65%、2 年 69%、3 年 68%) 年度末の生徒アンケートにおける「先生は、私たちの話を聞いてくれる」の項目について、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の割合 80%以上を維持する。(R5 年度…1 年 93%、2 年 94%、3 年 90%) 年度末の生徒アンケートにおける「学校へ行くのが楽しい」の項目について、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の割合 85%以上を維持する。 (R5 年度…1 年 91%、2 年 79%、3 年 80%) 年度末の生徒アンケートにおける「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を 80%以上にする。 	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向 1 安全で安心な教育環境の実現】</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校向上支援チーム事業を通じて、落ち着きのある授業支援等を行う。 様々な体験活動や講演会を実施し、生徒の多方面への興味や関心を高めることで社会性を育成する。 	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 各学期にいじめアンケート調査を実施し、いじめ・不登校の早期発見・早期対応に向けて教職員の連携を密にして取り組む。 年度末の保護者アンケートにおける「子どもは、学校へ行くのが楽しいと言っている」の項目について、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の割合を 85%以上にする。(R5 年度…83%) 	B

<p>取組内容②【基本的な方向2 豊かな心の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「あいさつ運動」を推進する。 ・「時間を守り規則正しい生活を心がける」「学校のルールやマナーを守る」の2点について、家庭と連携しながら全教職員で指導する。 <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年度末の生徒アンケートにおける「あいさつをきちんとしている」の項目について、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の割合を85%以上にする。 (R5年度…1年95%、2年83%、3年89%) ・年度末の生徒アンケートにおける「学校の規則を守っていますか」に対して肯定的に回答する生徒の割合を70%以上にする。 (R5年度…1年65%、2年69%、3年68%) ・年度末の保護者アンケートにおける「学校は、社会のルールを守る規範意識や基本的生活習慣が身につくよう指導している」の項目について、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の割合80%以上を維持する。(R5年度…87%) <p>*上記の事柄を全校集会、学年集会、様々な行事において指導・推進する。</p>	B
<p>取組内容③【基本的な方向2 豊かな心の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・規範意識や仲間意識が向上する学校行事を実施する。 ・鑑賞を通して、TP0に応じた社会的態度を育成する。 ・生徒一人ひとりが、互いの人権を尊重し合える教育を推進する。 <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年度末の生徒アンケートにおける「文化発表会や体育大会、宿泊行事は楽しみである」の項目について「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の割合を80%以上にする。 ・年度末の生徒アンケートにおける「相談できる友だちがいる」の項目について「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の割合を80%以上にする。 ・様々な分野からゲストティーチャーを招き、人権感覚を磨く取り組みを実施する。 	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
<p>△取組内容①については、学力向上コラボレーターや学びサポーターの活用で、各学年、落ち着いて授業が受けられる体制が定着している。各学期に一人一台端末を利用し、いじめアンケート調査を実施し、いじめ・不登校の早期発見・早期対応に努めた。年度末の保護者アンケートにおける「子どもは、学校へ行くのが楽しいと言っている」の項目について、肯定的な回答は80%で目標には達しなかった。</p>
<p>○取組内容②については、正門での登校時のあいさつ指導や、全校集会、学年集会でのマナーやルールについての講話や指導で気持ち良いあいさつができる生徒が増加している。年度末の生徒アンケートにおける「あいさつをきちんとしている」の項目について、肯定的な回答の割合は、1年94%、2年88%、3年88%であった。</p>
<p>学校のルールやマナーを守る取組みでは生徒会活動や各学年での指導、携帯電話やSNSの利用や薬物乱用防止についての外部講師による講話なども行った。年度末の生徒アンケートにおける「学校の規則を守っていますか」に対して肯定的に回答する生徒の割合は、1年98%、2年97%、3年99%であった。</p>
<p>校外活動においてもルールやマナーを意識して行動できるようにした。年度末の保護者アンケートにおける「学校は、社会のルールを守る規範意識や基本的生活習慣が身につくよう指導している」の項目について、肯定的な回答は92%であった。</p>

○取組内容③については、宿泊行事や体育大会、文化発表会のほか、各学年での取組みにおいてもお

互いを尊重するよう取り組んでおり、年度末の生徒アンケートにおける「文化発表会や体育大会、宿泊行事は楽しみである」および「相談できる友だちがいる」の項目について肯定的な回答は91.3%、90.7%で高い水準を維持できている。

次年度への改善点

- ・ 学力向上コラボレーターや学びサポートーの活用し、各教科の授業において「わかる」授業のための校内研究を活性化することで、生徒の自尊感情を向上させたい。そのためにいじめ・不登校の早期発見・早期対応は今後も重視して取り組みたい。
- ・ 生徒会を中心としたあいさつ運動は、今年度も年間を通して行われた。生徒が自発的に行うあいさつも増えており、学校への来客に対しても気持ちよいあいさつが行われるよう継続して取り組みたい。校外学習や職場体験など社会のルールを守る規範意識や基本的生活習慣が身につくよう働きかける必要がある。
- ・ 学校行事や学年行事に取組むために、学級内での仲間づくりやチームビルドの意識は今後も必要であり、グループや小集団で意見を出し合い、より良い取組みに自分たちでできるということを経験させたい。

大阪市立喜連中学校 令和 6 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標 2 未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> 年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を 35%以上にする。 (R5 年度…1、2 年 33%、3 年は 30%) 中学校チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 3 ポイント向上させる。 年度末の校内調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する生徒の割合を 60%以上にする。(R5 年度…1 年 54%、2 年 43%、3 年 55%) 年度末の生徒アンケートにおける「学校の授業はわかりやすい」の項目について、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の割合 85%以上を維持する。 (R5 年度…1 年 96%、2 年 87%、3 年 90%) 年度末の生徒アンケートにおける「文化発表会や体育大会、宿泊行事は楽しみである」の項目について、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の割合 85%以上を維持する。(R5 年度…1 年 94%、2 年 90%、3 年 91%) 	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> 学びコーディネーター事業と学校元気アップ事業を効率的に活用し、自学自習の場を確保する。 	B
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 放課後や定期テスト前、長期休業期間に学習機会の場を設け、学習に参加する生徒の数を前年度より増加させる。 	B
<p>取組内容②【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> 主体的・対話的で深い学びを取り入れた授業をすることを推進する。 基礎基本の定着を図るため、効果的な授業形態を確立する。 	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 年度末の生徒アンケートにおける「先生はチームティーチングの授業など、教え方を工夫してくれる」の項目について「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の割合を 80%以上にする。(R5 年度…1 年 91%、2 年 92%、3 年 78%) 年度末の保護者アンケートにおける「学校は、子どもの能力や努力を適正かつ公平に評価している」の項目について「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の割合 80%以上を維持する。(R5 年度…88%) 	B

取組内容③【基本的な方向 5 健やかな体の育成】

- ・体育の授業や部活動において基礎体力の向上を目指す運動を推進する。
- ・熱中症等予防講習会等を開き、体調管理を自分で行えるようになるよう推進する。
- ・新型コロナウイルス感染症を教訓とし、うがい、手洗い等の励行を推進する。

指標

- ・年度末の校内調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する生徒の割合を60%以上にする。(R5年度…1年54%、2年43%、3年55%)
- ・年度末の保護者アンケートにおける「学校は、子どもの安全確保や事故防止に努めている」の項目について「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の割合80%以上を維持する。(R5年度…93%)
- ・「食育つうしん」「ほけんだより」を毎月1回発行し、健康に対する関心を高めさせる。

B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

△取組内容①については、学びコーディネーター事業と学校元気アップ事業を活用し、放課後の自習教室の取組みを長期休業中や定期テスト前だけでなく毎月定期的に実施した。学びサポーターも放課後学習会に参加することで生徒が参加しやすい雰囲気を作っている。

○取組内容②では、各教科でペアワークやグループワーク、一人一台端末の活用など主体的・対話的で深い学びを取り入れた授業を行うことを校内研究授業の課題として設定した。年度末の生徒アンケートにおける「先生はチームティーチングの授業など、教え方を工夫してくれる」、保護者アンケートにおける「学校は、子どもの能力や努力を適正かつ公平に評価している」の項目について肯定的に回答した割合は、1年87%、2年85%、3年86%で目標値を上回った。

○取組内容③は、体育の授業や部活動の開始時に基礎体力向上のための運動を実施した。年度末の生徒アンケートで「運動やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する生徒の割合は、1年45%、2年51%、3年55%で昨年度並みであった。

感染症拡大防止のため啓発活動や手洗いやうがいの励行を継続して行っている。年度末の保護者アンケートにおける「学校は、子どもの安全確保や事故防止に努めている」の項目について肯定的な回答の割合は、90%を維持し、「食育つうしん」「ほけんだより」も毎月1回発行できている。

次年度への改善点

- ・学びサポーターも活用して、生徒が質問しやすい雰囲気づくりに努めているが、学びサポーターが大学生で自らの学業の関係で安定した参加が見込めず人材の確保が難しい。「学校元気アップ自主学習会」に参加したいと思っている生徒は生徒アンケートより19%にとどまっており、学習事項の定着のためにも自主学習できる場所は継続して確保しつつ、学習に対して積極的に取り組めるよう授業研究も行う必要がある。
- ・全教員が必ず年1回は行う研究授業において、一人一台端末等を活用し生徒が主体的に取り組む授業について計画するように声掛けを行ったが、十分に行なうことが難しかった。今後も相互参観することで、新しい指導方法の発見や生徒の自主学習の拡大につなげたい。
- ・体育の授業や体育大会などの体育的行事を通じて、運動やスポーツの好きな生徒は増加している。しかし、運動能力や運動習慣は「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」においても優れているとまでは至っていない。運動やスポーツへの興味を持ち続けることで生涯スポーツとして健康・安全面での意識向上に努めたい。感染症、食の安全性など健康の重要性についても意識させたい。

大阪市立喜連中学校 令和 6 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標 3 学びを支える教育環境の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業日において、生徒の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の 50% 以上にする。 学習者用端末を活用した学習、生徒アンケート等を実施する。 教職員の働き方改革に関して、有給休暇を 10 日以上取得する教職員の割合を 80% 以上にする。 	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向 6 教育 DX の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> 学習者用端末など ICT 機器を使用した授業など、時代のニーズに応じたテーマで設定された校内授業を行う。 	B
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 学習者用端末など ICT 機器を使用した研究授業を行う。 	
<p>取組内容②【基本的な方向 6 教育 DX の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> 学習者用端末など ICT 機器を活用した教育推進のための環境を整備し、昨年度以上に活用する。 	B
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> デジタル教材を活用した朝学習、学習者用端末を活用した生徒アンケート等を実施する。 	
<p>取組内容③【基本的な方向 7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> 有給休暇の取得や長時間勤務の抑制など、教職員の働き方改革を具体的に進める。 	B
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 教職員の働き方改革に関して、有給休暇を 10 日以上取得する教職員の割合を 80% 以上にする。 	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
<p>△取組内容①については、ICT 機器を活用した授業が各教科で実施されており、一人一台端末を活用した授業も増え、授業配信も不登校生対応を中心に恒常に実施されている。授業日において、生徒の 7 割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の 50% を超えており目標値に近づいている。</p>
<p>○取組内容②については、各学年の学習課題や終学活での連絡、学期ごとのいじめアンケートや被害調査、年度末の生徒アンケートなど、一人一台端末を活用することで結果集計の負担軽減をはかれている。</p>
<p>○有給休暇を 10 日以上取得する教職員の割合を 80% を超えている。夏休みなど長期休業期間にテレワークを活用したり、授業時数を標準時数を大幅に上回ることのないように月行事を調整したりするなど、教職員の働き方改革への意識は高まっている。</p>

次年度への改善点

- ・実際の写真や動画、図表も提示できるため授業用PCで作成した教材をプロジェクターで投影し、生徒に興味・関心を持たせる授業は、各教科で取り組まれている。今年度は、一人一台端末を使って調べ学習をさせたり、個別学習やその記録に利用する場面も見られた。不登校生に対する個別学習課題も活用をはじめた。今後もグループでの学習や個別学習での活用方法なども研究を進めていく。
- ・生徒のSOSをいち早くとらえるツールとして相談機能や心の天気の入力についての意識向上を図った。生徒の意識調査としての生徒アンケートの集約を容易にするためにも、一人一台端末を活用しているが、そのスキルを多くの教員が身につけることで様々な場面で現状把握が容易になると考えられる。
- ・働き方改革についての教職員の意識は向上している。また、減少傾向にあるとはいえ、教職員の超過勤務は部活動を中心に依然としてみられる。超過勤務による体調不良で年度内の欠員を防ぐためにも教職員の働き方についても引き続き注視していく必要がある。

令和 6 年度 学校関係者評価報告書

大阪市立喜連中学校 学校協議会

1 総括についての評価

本年度の学校の自己評価結果は概ね妥当である。生徒アンケートや保護者アンケート、検証資料の結果から、本年度の学校の取組みを再確認することができた。

2 年度目標ごとの評価

年度目標：【安全・安心な教育の推進】

- ・年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を 85%以上にする。
- ・年度末の保護者アンケートにおける「学校は、いじめのない学校づくりに取り組んでいる」の項目について肯定的な回答の割合 80%以上を維持する。
- ・年度末の校内調査において、不登校生徒の在籍比率を前年度より減少させ、前年度不登校生徒の改善の割合を増加させる。
- ・年度末の生徒アンケートにおける「学校の規則を守っていますか」に対して肯定的に回答する生徒の割合を 70%以上にする。
- ・年度末の生徒アンケートにおける「先生は、私たちの話を聞いてくれる」の項目について、肯定的に回答する生徒の割合 80%以上を維持する。
- ・年度末の生徒アンケートにおける「学校へ行くのが楽しい」の項目について、肯定的に回答する生徒の割合 85%以上を維持する。
- ・年度末の生徒アンケートにおける「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を 80%以上にする。

年度目標：【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ・年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を 35%以上にする。
- ・中学校チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 3 ポイント向上させる。
- ・年度末の校内調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する生徒の割合を 60%以上にする。
- ・年度末の生徒アンケートにおける「学校の授業はわかりやすい」の項目について、肯定的に回答する生徒の割合 85%以上を維持する。
- ・年度末の生徒アンケートにおける「文化発表会や体育大会、宿泊行事は楽しみである」の項目について、肯定的に回答する生徒の割合 85%以上を維持する。

年度目標：【学びを支える教育環境の充実】

- ・授業日において、生徒の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の 50%以上にする。
- ・学習者用端末を活用した学習、生徒アンケート等を実施する。
- ・教職員の働き方改革に関して、有給休暇を 10 日以上取得する教職員の割合を 80%以上にする。

【安全・安心な教育の推進】

- 年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合は、目標値を達成することができた。年度末の保護者アンケートにおける「学校は、いじめのない学校づくりに取り組んでいる」の項目について肯定的な回答の割合も目標値 85%に達することができた。
- 年度末の校内調査において、不登校生徒の在籍比率はほぼ横ばい状態であったものの前年度不登校生徒については改善がみられた。
- 年度末の生徒アンケートにおける「学校の規則を守っていますか」「先生は、私たちの話を聞いてくれる」に対して肯定的に回答する生徒の割合は、いずれの学年も目標値を大きく上回った。
- 年度末の生徒アンケートにおける「学校へ行くのが楽しい」「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」の項目について、肯定的に回答する生徒の割合は目標値を達成することができた。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合は、1年がわずかに目標値に達しなかったが、2年、3年は目標値に達することができた。
- 中学校チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対応比は、同一母集団において経年的に比較し、3年では低下したが、2年は向上が見られた。
- 年度末の校内調査における「運動やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合は、目標値には達しなかったが昨年並みであった。
- 年度末の生徒アンケートにおける「学校の授業はわかりやすい」「文化発表会や体育大会、宿泊行事は楽しみである」の項目について、肯定的に回答する生徒の割合は、目標値を大きく上回った。

【学びを支える教育環境の充実】

- 授業日において、生徒の8割以上が学習者用端末を活用した日数は目標値に達しなかったが、生徒の7割以上が学習者用端末を活用した日数であれば目標値に達しており、端末活用率は昨年度より向上している。
- 学習者用端末を活用し teams を使って学習課題を与え提出状況を点検し、デジタルドリルも活用した。生徒アンケート等は Microsoft Forms を活用し、データ集計の簡便化をはかれている。
- 教職員の働き方改革に関して、有給休暇を10日以上取得する教職員の割合は、目標値に達することができた。

3 今後の学校園の運営についての意見

学校行事や学力向上にむけての取組みは一定評価できる。今後も学校の課題である学力向上やいじめを許さない学校づくりなど継続して取り組んでほしい。読書習慣を身につけさせることで文章を読み解く力を育んでほしい。不登校対策についても学校・地域・区役所が連携を強化し、さらに改善に向けて尽力してほしい。